

意思伝達装置で福祉学習

11月10日(火)、山崎南中学校で一年生59名が、意思伝達をテーマとした福祉学習の授業を受けました。

この授業は、障がいを持つ人が会話で相手に意思を伝えることが難しい場合のコミュニケーションを取る方法を学習するというものです。

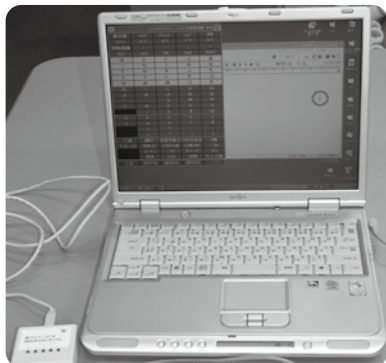
ひらがなの表を使ってうなづくだけの動作ができる相手の言葉を探り当てたり、意思伝達装置を使い文字やマウスを操作して、意思の伝達方法を学習しました。生徒からは、「いつも何も考え



ひらがなの表を使って、相手の言いたい言葉を探します。



ワードをうまく使いこなせるかな



意思伝達装置とは、パソコンにソフトを組み込みワンスイッチでキーボードやマウスを操作します。

ずに使っている言葉の大切さを知った「言いたいことが伝わらなうれしかった」「社会がもっと障がいがある人に住みやすい環境になつたらいいなと思うた」などの感想が寄せられました。

(山崎支部 阿曾秀樹)

認知症について正しく理解

認知症を知ろう!いちのみや教室



介護のための知識を「介護にいかすアロマセラピー(10月1日)」～介護者支援コース～

認知症は誰にでもおこりうる脳の病気で、85歳以上では、4人に1人は症状があるとされています。一宮町でも介護認定を受けておられる505人のうち270人(21年3月末)に認知症の症状があります。

認知症の人と家族が安心して暮らし続けるためには、認知症について正しく理解して、地域

全体で支えあうことが大切です。一宮市民局保健福祉課と本会一宮支部では、支えあいの輪を広げるために、「認知症を知ろう!いちのみや教室」を計画。9月3日(木)より一宮保健福祉センターを会場に始め、教室は基本講座に加え、認知症予防コース(3回)と介護者支援コース(2回)を行いました。



元氣な間にいろいろチャレンジ!「脳をトレーニングしよう(11月10日)」～認知症予防コース～

教室の最終日12月1日(火)には、「認知症にならない食べ物があ